



絵を見て、まちがいを10カ所見つけてね。正解者のうち、抽選で5人に図書カードをプレゼントします。



応募方法

はがきまたはファクスに①答え(どちらかの絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥関心のあった記事⑦感想などを書いて秘書広報課(〒443-8601 FAX 66-1192)へ。当選者と答えは、広報がまごおり1月号に掲載します。

締切 11月14日金

9月号当選者

市川 啓子(金平町)
石川 靖(鹿島町)
鈴木美恵子(中央本町)
野々部利夫(府相町)
堀 絢嗣(大塚町)



画:とうふねこ座
市川雅子

(50音順・敬称略)

9月号の答え



十三夜にお月見

秋といえばお月見。十五夜はよく知られていますが、十三夜はご存じでしょうか。十三夜は満月の十五夜に比べ、ほんの少し欠けた月。その儂げな姿が十五夜に次いで美しいと昔から親しまれてきました。十五夜が中国伝来の行事であるのに対し、十三夜は日本独自のもの。ちょうど栗や豆の収穫時期にあたることから、「栗名月」「豆名月」とも呼ばれます。

蒲郡開発の祖である藤原俊成も

「先まくりいま二夜をば満てずして

くまなきものは長月の月」

(満月にはまだ二晩足りない十三夜の月こそ、満月以上に輝いている)

と歌に残しています。不完全さの中に、むしろ美しさを見出す感性はとても日本的ですね。

今年の十三夜は11月2日。澄みわたる夜空に、ほんの少し欠けた月を見上げて、先人たちが感じた趣に思いを寄せてみてはいかがでしょうか。